

<総評>

コロナ、侵攻、異常気象、騒がしくまた不穏な世界です。日本の詩歌は何を歌うのかと考えながら選んでみました。それと同時に日常をていねいに描写する力のある作品にも魅かれました。口語詩句が持っている特徴のひとつに、定型がはらんでいる底力と、それゆえに無意識に引きずられてしまう感性の限定から自由であることではないかと感じました。

信頼の代わりに居座ってる金魚

大橋 弘典 z z 群馬県

——限られた範囲に、その水しか知らず飼われている金魚。所属集団や我が身の安全を選ぶのは信頼か。それとも居座っているだけか。

ポケットの中の穴に
ひとさし指を差し込む
解決ではない方法で
かなしみを塞ぐ

春町 美月 大阪府

——見えない場所で意味の無いことを解決ではない方法でふさぐ。それが現実の姿かもしれない。

目の前のいじめは制止しないのに

ご冥福は祈るんだ

そつか

浅葱 愛知県

——祈るのは見えない行為。いじめを静止するのは見える行動。どちらに価値が置かれるのか。日本人は見えるものしか理解できない。それゆえに見えるものには過敏になるのだろう。

こわいから

みんなで行った

投票所

風船 東京都

——民主主義はこわいもんなあ。撃たれる人もいる。

聴きたい言葉を語ってくれた

あの人は約束を守ったことが

ない

茶和鈴 東京都

——聴きたい言葉を語るものってなんだろう。甘い恋人？宗教？公約？振り込め詐欺？

サイコロの1の目

くぼんだところの、

東京

立花ばとん 東京都

——サイコロの1はピンといい一番ということ。また、そこには他の目より深く窪んでいる帝都の歴史がある。

乳液を塗りこむ横で

いつからか

ハンバーガーを
溢さず食べられる
我が子の寝息

広田 土 大阪府

——就寝前の肌の手入れという自分に返る時間。いつのまにか成長した我が子を思う充実のひととき。ハンバーガーを溢さずに食べるという喻えが効果的。

たまご粥と冷やっこ
きゅうりの和えもの、隔離から
戻りつつある胃袋要請

泰浜もとじ 神奈川県

——新鮮さや温度やできたてというものの価値が見直される、コロナ隔離という体験の具体性が鮮明。

熱帯夜
選ばなかつた道に立つ
わたくしが手をいっせいに振る

からすまあ 神奈川県

——人生は“在りたかった自分”という夢との戦い。それは追いかけられる熱帯夜の悪夢でももある。

二重丸がへたくそで海の日

杢いう子 佐賀県

——たどたどしい二重丸に詰まった期待感が海の日にふさわしい。

あだ名禁止
呼び方どうする 先生の

スズキセーホン 千葉県

——あだ名で傷つく人ばかりではあるまいに。名前を忘れてしまうほど親しまれた先生はどうなるの。マドンナは？赤シャツは？

民法七百七十二条

一晩だけ婚姻出来れば
あと三百日は
あなたの子が産めるのに

コンスタンティノープル小林 東京都

——離婚しても三百日は夫の子という民法。こういう考え方もできるね。法律も味方してくれるし。

君が「いいね」
と言ったから記念日に
するのがわからなかった

今は

マズルカ 山口県

——『サラダ記念日』時代の“愛情”への素直な肯定感はもう通用しないのだろうか。

七月の
油断しているチロルチョコ

藤田 ゆきまち 三重県

——今年の猛暑にチロルチョコは勝てるか？ 気候変動 VS チロルチョコ。

モザイクをかけるニュースさ赤蝮

小林紅石 埼玉県

——顔、文字、景色、なんにでもモザイクがかかる最近。かける基準が分からない。

人間は反芻しないから

慰めみたいに他人を殺める

小井 詩文 京都府

——もし人間に胃袋が四つあったら美味を何度も味わえる。それはかなりの慰めになるだろう。結局思想の成長も満腹と美味によるのだろうか。“反芻”という発想が面白い。